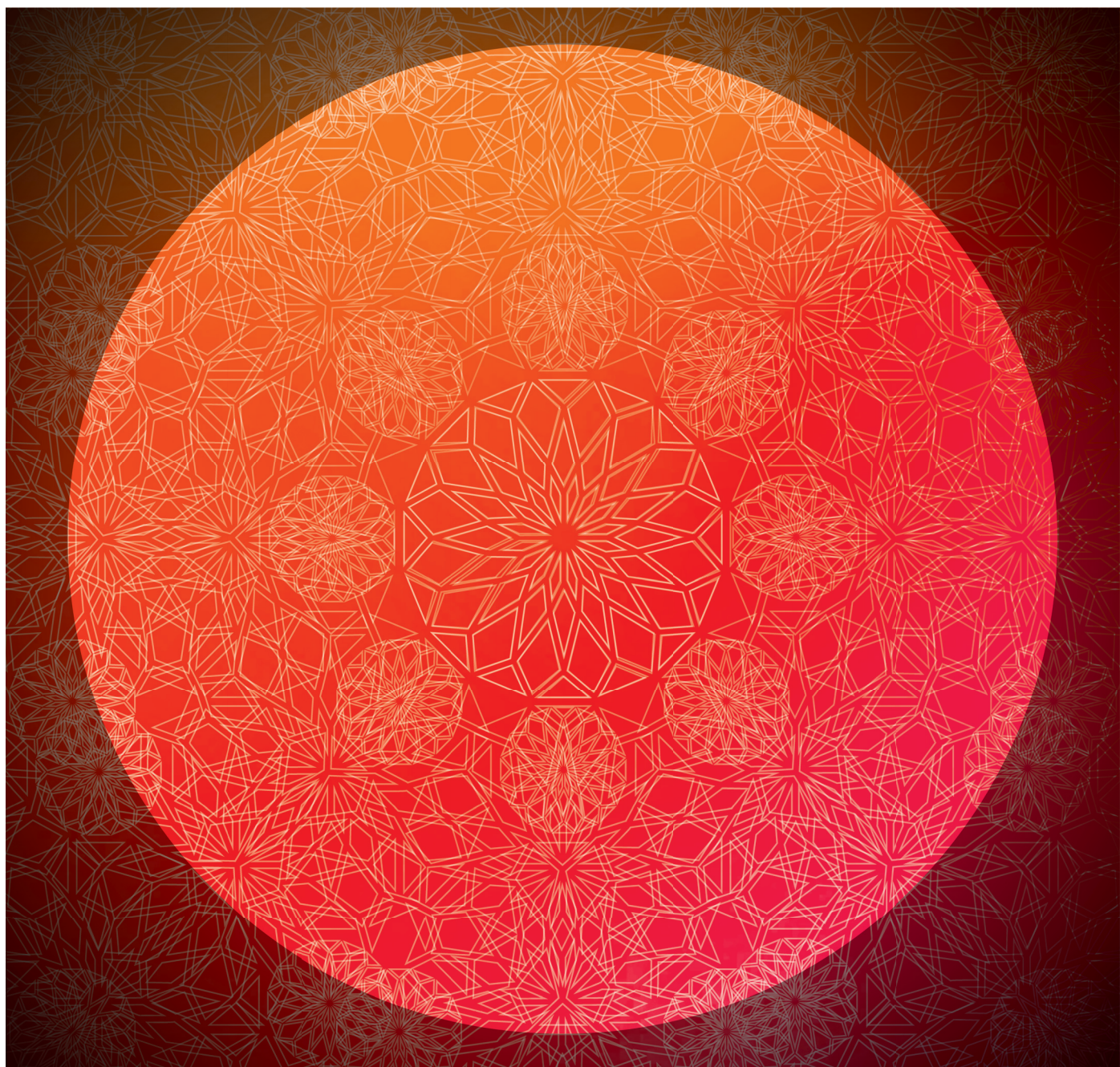

SOBUN-SCOPE

2022

和光大学 表現学部 総合文化学科

Department of Transcultural Studies



「コロナ禍」でも、楽しめる、研究できる

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の感染状況が収まりません。大学の学びのあり方も大きく変わりました。授業の多くがオンライン形式になったり、対面式の授業でも間隔をあけて座り、自由に会話ができなかったりと、これまでになかった状況になりました。大学に限らず、社会全体が予想しなかった状態になっています。とくに、大勢で集まったり、直接話をしたりという、人間がこれまであたりまえに行ってきた行動が、世界規模でできなくなったことは、歴史上なかったことでしょう。

けれども、この災禍がインターネット環境が世界的に普及したあとに起こったことは、不幸中の幸いでした。インターネットを通じて、オンライン授業を行ったり、容易に行くことのできなくなった国の人々の顔を見たり、声を聞いたりすることが出来ます。外に出られなくなった時間を利用して、さまざまな映像や音楽を楽しむようになった人もいます。インターネットを通じて、気軽に電子書籍や論文を読むようになりました。外に出られず「引きこもり」となっている私もインターネットを利用して、見たことのなかった映画や遠い国々のニュースやドラマ、若いころお金がなくてレコード・CDが買えず聞けなかった音楽や行きたくても行けなかったライブ・コンサートなどを楽しんでいます。さらに、今ではすっかり定着した書籍の宅配も、コロナ禍でたいへん重宝しています。

このような映像や音楽、書籍はみな、誰かが創造したものです。自分の考えや思いを表すため、あるいは誰かに何かを伝えるために創られたものです。映画や音楽だけでなく、ゲーム、マンガ、お笑い、演劇、小説、詩、短歌、俳句、神話、伝説、古典文学、史料、ルポルタージュ、評論、学術論文、エッセイ、ブログ、SNSなど、人はあらゆる方法で「表現」をしてきました。それらが何を訴えているのか、何を意味しているのかを理解することは、必ずしも容易ではありません。表現されている通りに、ただ表面的に受け止めては、その理解が正しくないこともあります。批判的に理解する。そうすることで理解は深まり、自分なりの解釈や思考が生まれるのです。

総合文化学科では、そのようなプロセスを通じた学術研究を進めています。この『SOBUN-SCOPE』では、総合文化学科で行われたさまざまな研究成果の一部を紹介しています。お読みになったみなさんは、取り扱われる対象の多様性や研究のおもしろさがおわかりになることでしょう。コロナ禍でも、人間が創造・表現してきた遺産や作品に触れることは可能です。そして、それらを対象とした研究も当然可能です。この逆境をバネにした新たな研究方法や研究成果が表れるかもしれません。今はそれを楽しみにしたいと思います。

（学科長 坂井弘紀）

「目次」

○巻頭言

「コロナ禍」でも、楽しめる、研究できる 坂井弘紀

○この授業がおもしろい

日本語の文法・日本語の意味……………2

日本語の表現・ゼミナール「日本語のしくみを考える」(荻宿ゼミ)……………3

ゼミナール「神話と歴史」(松村ゼミ)……………4

笑いの歴史・日本の文化と文学・編集の現場……………6

○フィールドワーク報告

悲劇!! フィールドワークで旧遊郭を歩かされる学生達!!! 大淵風生……………7

○言語研修プログラム

国際遊牧民競技大会フィールドワーク(坂井ゼミ)……………8

○言語研修プログラム

日本語教員養成プログラム……………10

あなたの隣の外国語 中国語研修プログラム 加藤三由紀……………11

○学生の制作活動

英語研修プログラム受講を振り返って 黒田溪日……………11

○「映像研究ゼミ」・映像制作レポート

「コロナ禍でも踏ん張る——(小林ゼミ)……………12

○新任教員の挨拶

這えば立て、立てば歩くと……………14

自由になれた気がした若者たちへの賛歌 稲葉有祐……………15

めくるめく、回転して、その後—— 角尾宣信……………16

踊ることと読むこと、からの研究へ 西田桐子……………17

○脚下照顧 証拠却下

海と空が出会う彼方に漕ぎ出す航海者たれ 馬場淳……………17

○卒業生の活躍

和光大のシンソウ 暴く? 掘る? 小関和弘……………18

バイクで走る国語の先生 しんどいこともあるけれど楽しく。 河野明香……………20

充実した大学生活を通じて英語教師になる夢を叶える 平間彩……………22

○自著紹介

「文豪」が渴望されるとき……………24

——『文豪たちの住宅事情』『文豪東京文学案内』(笠間書院) 田村景子……………24

○資料……………25

先輩たちの卒業論文・卒業制作……………30

二〇二〇年度 卒業論文・卒業制作一覧……………32

二〇二一年度 卒業論文・卒業制作一覧……………34

多彩なゼミナール……………34

多彩なゼミナール

■英語のしくみを考える (阿部明子ゼミ)

英語と日本語を比較・対照することで見えてくるそれぞれの言語の性質について考察し、英語と日本語がそれぞれのような特徴をもった言語であるのか理解することを目標とする。具体的なテーマは受講者の興味・関心と照らし合わせながら柔軟に対応するが、英語と日本語がそれぞれ「出来事」をどのように捉え、どのように言語化されているのかについて様々な言語現象を通して考えていく。同じ出来事を体験しても、言語が異なると自然に創り出す表現の仕方は必ずしも同じではない。また、移動や状態変化の表現を比べてみても出来事などの部分を重視した表現をとりたがるのか、言語によって異なる。その他、音声面、語や文の構造上の違いなどについても幅広く議論していきたい。

■近世の文化と言語表現 (稲葉有祐ゼミ)

近世期の基礎的な教養である俳諧(連句)の読解を軸として、近世という時代・文学・表現の特質を理解し、研究する。連衆が一座し、読者が即作者となり、作者を即読者へと誘う俳諧の魅力は、そのライブ感にある。芭蕉はもちろん、西鶴、近松、秋成…彼ら文芸を好む者は皆、俳諧に興じていた。俳諧という視点を押さえながら、各人設定のテーマに沿って、適切な解釈・発展的な考察を導くための調査研究の方法を身につけ、成果を論文にまとめることを目指す。近世期の文学はジャンルが林立し、それぞれが多角的なネットワークによって繋がっている。時空を超え、古人と対話をしながら、思索を深めたい。

■ことばの詩学 (遠藤朋之ゼミ)

テーマはアメリカの詩を精読すること。ただ愚直にアメリカの詩を読む。そして、卒業制作で詩集を物したい学生向け。「表現とは何なのか」それを、言語表現の極北である詩をフィールドにして学びたい学生に来てほしい。詩には、物語詩を除いて、ストーリーがない。ということば、ことばのいずまい、たまたまいを読み込んでいくのが詩を読む作業。「ことばのコミュニケーション機能」以外の側面こそが詩のおもしろさ。それを主に英語でやってみよう、というのがこのゼミ。卒制で詩集作成を考えている学生の詩も読む。このゼミは英語の苦手な学生にも開かれている。というのも、英語の詩を読みつつ、英文法の説明もするからだ。「英語が苦手」、ならば、このゼミを取るべし。

■現代中国の社会とことば (加藤三由紀ゼミ)

ものすごいスピードで変化し続ける中国の社会とそこに生きる人々を、映像とことばによって考察する。新しい風景、新しいことばが次々と生まれ、現実を切り取り、生活を変えていく。その一方で、伝統文化を復活、前面に押し出す人々もいる。そんなダイナミックな中国世界からのメッセージを読み解いていく。取り上げる素材は、日本語訳や日本で制作された映像を多く含む。日本では中国イメージがどのように造られているのかも合わせて考えていく。前期には報告の仕方やレポートの書き方などの作法を学びながら、現代中国短編小説や映画、テレビ放映された映像などを分析する。後期には中国に関わる場所への日帰りフィールドワークを実施する。

■日本語のしくみを考える (菊宿紀子ゼミ)

現代日本語の語彙・意味・文法・表現・表記をテーマとする。敬語、配慮表現、比喩、新語・新用法(ミタイナ等)、指示詞(コソア)の用法、接続詞(デモ/チナミニ)の用法、人称詞(ワ

タシ/オレ/ボク等)の使い方、役割語(ワシハ/ジャ等)、オノマトペ(モチモチ/サクサク等)、意味・用法の変化、当て字、話し言葉の文法(ナンカ・アノー等)、会話のしくみ、文章の構造など、日本語学のテーマは様々である。日常会話、小説、漫画、歌詞などの多様なジャンルの資料から用例を採集して観察・分析し、日本語のしくみについて考察したことを議論する。日本語はどのような言語であるか、言語の本質とは何か、ことばで表現するとはどういうことか、考えたい。

■映像研究 (小林茂ゼミ)

一年を通して映画を作る。映画を見ると作るでは大きな違いを感じるであろう。作ることはたいへんであるが、映像制作はまた楽しいものである。映画表現を総合的に理解し、機材の仕組みや映画の構成・編集を学び、作品をつくる過程の中で、社会や自己を理解する新たな視線を発見する。自己を掘り下げ、新たな価値観の創造へつなげていくことが大きな目標である。グループで作品を作る場合が多いと思われるので、グループ活動を苦にしない人。カメラに初めてさわる方も歓迎する。後期の始まる前にゼミ旅行を計画している。実践系、実技系の科目なので、随時ゼミ生と相談・打合せをしながら内容を決めていく。教室に映画はこがってはいない。受け身ではなく、自ら動き出す学生の受講を望む。

■ユーラシアの文化と歴史 (坂井弘紀ゼミ)

テュルクを中心にユーラシア各地の文化や歴史に関する知識を深めることを目的とする。中央ユーラシアを中心とするテュルク世界の口承文芸(神話・叙事詩・伝説・民話)や歴史、文学、音楽、現代文化を深く学ぶ。中央ユーラシアに関する基礎知識を得るために、担当教員その他の関連科目をあらかじめ、または並行して受講するとよい。各回のゼミでは学生の報告を中心に進めていく。学生発表のテーマはもちろんユー

ラシアの歴史と文化についての学術的なものとする。課題図書(講義を行うこともある。学生発表または課題図書の内容について、ゼミ生同士が互いに議論を交わしながら、研究を深めていく。

■ドイツの文化と歴史 (酒寄進一ゼミ)

現代ドイツ文学について理解を深め、背景となる地域や歴史への視野を広める。前期はフェルディナント・フォン・シーラッハの短編集『刑罰』の輪読を中心にする。同短編集は一二話からなるので、作家のこれまでの作家活動を概観したのち、毎週発表者を決め、一話ずつ精読する。後期は卒業論文・卒業制作を組上にのせながら受講生の関心事に寄り添う形で議論を深めたい。具体的には、卒論の抜粋を順次提出してもらい、これをゼミ参加者全員で読み、議論する。しっかりと出席し、議論に積極的に参加する学生の受講を望む。前期はドイツ語原文にあたる場合もあるので、ドイツ語初級履修済みか同等の語学力があることが望ましい。

■英語コミュニケーションと文化 (佐藤真理子ゼミ)

英語教育の理論と実践をテーマとし、次の二本の柱にそって英語教育やコミュニケーション能力育成について研究する。①日本の英語教育・政策の動向について概観し、各自のこれまでの学習行動を省察することによってそのより良いあり方について考える。小中高等学校、大学、塾、家庭などあらゆる英語教育の場面での現状や問題点について調査、分析し、実証的研究を行う事を目指す。②英語教育の中で育成されるべきコミュニケーション能力について考える。言語教育の大きな意義の一つは、「言葉を用いて人と繋がる」喜びを経験することであろう。それを可能にするコミュニケーション能力とはどのようなものかを掘り下げ、英語で自分の考えや気持ちを伝えるためには何が必要なのかを考える。

■現代文学のメディアミックス(田村景子ゼミ)
文学・文化研究の手法を駆使して、さまざまなメディアで変奏される物語を詳細かつ幅広く検討することを大きなテーマとしている。メディアの横断によって豊かに展開されてきた魅惑の「物語」を、メディアの特性を含めて具体的に考察する。メディア・ミックスに注目する意義は、諸ジャンルを連帯させる「物語」のコンテキスト(潜在的意味)を明らかにし得ることにある。個々の作品もしくはテキストの特異な輝きを感じ得るためには、時代状況の変転と強く結びつくそうしたコンテキストをこそ捉えねばならない。私たちの「現在地」(岡田利規)は、はたしてどこか? このゼミでは読書し鑑賞する私たち自身を意識しつつ、現代文学の奔放な想像力に深く潜っていく。

■古代の文化と言語表現(津田博幸ゼミ)
日本古代を中心とした文学・言語・文化などを研究する。自分で問題を設定し、自分で調べて資料を集め、文献を読解して分析し、発表資料を作って仲間に向けて発表し、他者の批判にきちんと向き合い、さらに熟考して最終的に論文を書けるようになることを目指す。よって個人発表と全体討議が中心の授業となる。各自の研究テーマは古代日本文学(平安時代くらいまで)を対象とするものであることが望ましい。具体的には「古事記」などの神話や伝説、「万葉集」などの和歌「日本書紀」などの仏教説話・思想、「源氏物語」などの物語、六国史などの歴史または日本漢文などである。ただし、方法を共有できるなら、古代日本以外の対象を扱うテーマも柔軟に受け入れたい。

■ポピュラーカルチャー分析(角尾宣信ゼミ)
本ゼミでは、多くの人に愛される作品(ポピュラー・カルチャー)の分析・研究方法について総合的に学び、作品分析に応用し、自分なりの解釈を考察していきます。近現代の社会は、メ

ディアの発達を通じて、それまでとは桁違いに多くの人に愛される作品を数多く生み出してきました。しかし、それは、なぜ愛されるのでしょうか? 愛している人や社会はどのように作品を捉えているのでしょうか? そして、まだ気付かれていない作品の見方もあるかもしれません。実は、作品の解釈は無限に存在するので、分析は自分との闘いでもあります。時には、作品への愛や固定観念を捨てなければいけない。そういう厳しさも通じて作品と人と社会に向き合っていく先に、皆さんが目にする景色を、本ゼミでは大切にしたいと思います。

■文化編成のダイナミクス(長尾洋子ゼミ)
テーマは「地域文化をひらく」。地域はいくつものスケールで捉えることが可能だ。米を栽培し食する稲作文化圏などの大きなスケールから、国や地方、小さな農山漁村まで、多様な地域文化を見出すことができる。このゼミでは、博物館・美術館、図書館なども視野に入れた広い意味での「ミュージアム」や、文化にあふれた文化を生み出した場所「カルチャー・スポット」に注目して文化の動きをみていきたい。文献やインターネットを用いた調査研究だけでなく、フィールドワークも重視している。環境や人びとの営みにおける文化の形成、変化、絡まりあいを考え、学びと経験を積み重ねて、各学生が自分の言葉で語れるようになることが目標である。

■シネマ・スタディーズ(映画研究)(名嘉山リサゼミ)
映画研究をテーマとする。アメリカ映画を中心に、映画の形式、技法、ジャンル、音など、「映画芸術」の基礎を学ぶ。授業では教科書を輪読し、基本的な映像の分析方法を学び、映画を批評的に鑑賞することを目指し、発表やレポート・論文執筆を行う。また、作品分析だけでなく、映画の歴史を学んだり、アーカイブについて調べたりと、映画を一つの文化形態として様々な角

度から学ぶ。そのうえで、各自でテーマを設定し、発表やディスカッションを通して掘り下げていく。映画について広く学ぶとともに深く学び、映画の研究方法を身につけることを目指す。「英語圏の文化」「映像表現の地平」など映画関連科目をあらかじめ、あるいは並行して受講することが望ましい。

■日本近現代文学の多様性(西田桐子ゼミ)
日本近現代文学の「多様性」を探り、作品にあらわれる表象やイメージを、いかに読み解き分析していくかについて、さまざまな角度から学んでいく。授業では、人種、民族、国籍、社会階層、ジェンダーなどに着目しながら、戦後の日本語小説を輪読する。自由闊達に議論してもらうなかで、作品の読みを深め自分の解釈を打ち立てることの楽しさを感じてもらいたい。本ゼミは、卒業論文で明治期以降の日本文学の表象分析に取り組みたい人を歓迎する。「多様性」をテーマとするが、特にマイノリティの表象に着目することで、日本社会の差別や抑圧の歴史と、それらに屈しない力としての抵抗や解放について、さらに「自由」とは何かについても考えていきたい。

■人とモノの関係史(馬場淳ゼミ)
人間とモノ(広くは非人間)の関係を人類史的視野に立って研究する。具体的には、次の3つの目標に向けて、テーマに関わる文献の輪読、発表とディスカッションを行う。①単なる道具ではなく、人間に働きかけたり、人間の行為を媒介するモノの行為主体性(エージェンシー)について理解を深め、②人間を万物の尺度・世界の中心とする人間中心主義の世界観を再考する。③アートのテクニクス論(文化人類学)、アクターネットワーク論(社会学)、パースの記号学を通して、人とモノがともにエージェンシーとなつて織り上げる世界の論じ方/描き方(表現技法)を学ぶ。本ゼミでは、時間と空間を縦横無尽に行き来しつつ、ジェンダーや家族、アート、動物、医療、武器、「宝物」などの具体的なトピックが

クロスリンクしてくる。この背景として、担当者の講義をあらかじめ/同時並行で受講しておくことが望ましい。

■神話と歴史(松村一男ゼミ)
ギリシア神話と日本神話をテーマとし、比較の視点を重んじて研究する。神話は過去の遺物ではなく、人間が生きて行く上で必要な力を与えてくれる物語だといえる。今日の社会においても神話の持つ力が必要とされ、それが人々を支えている。そして、「神話」の視点から考えるべき問題は無尽蔵にある。もちろん、それは必ずしもギリシア神話、日本神話など過去の神話そのままだけではない。「神話」の範囲はかなり自由に設定できる。「神話」が人間の他の精神活動とどのように違うのか、あるいは重なるのかを知ることによって、神話の知識を現代社会の中で使うことができるようになるだろう。「神話」を広く学んで比較し、神話という現象から世界を理解しようとする関心の広がりのある学生を待つ。

■セクシュアリティ・ジェンダー・テキスト(宮崎かずみゼミ)
文学などのテキストを批評的に読解する力を養うことを目指す。文学以外の何らかの問題意識や批判的な切り口があつてこそ、作品を批評することはできるようになる。批評をするためには自分なりの批評の視座を獲得することが必要であるが、このゼミではそれがジェンダーやセクシュアリティということになる。具体的には、ジェンダーやセクシュアリティの成り立ちを歴史的に学んでゆくことから始め、同性愛やセクシュアリティに関する文献を輪読して必要な知識を獲得したうえで、テキストを精読する力を養う。また前期は映画も使つて、ジェンダー批評入門とする。精読の作法を身に着け、それを批評へとつなげてゆきたい人を歓迎する。

SOBUN-SCOPE 2022

2022 年 4 月 1 日発行

編集／発行 和光大学表現学部総合文化学科
〒195-8585 町田市金井ヶ丘 5-1-1
☎ 044-988-1431
<https://www.wako.ac.jp/>

印刷 株式会社小西印刷所



異質力で輝く。》

 和光大学